

平成22年度学校評価表(前期)

世羅町立中央小学校

<p>【学校教育目標】</p> <p>ゆめ あこがれ そして 挑戦!</p>	<p>【ミッション】自立し、将来において地域社会を担う人材を育成する。</p> <p>〈目ざす教職員像〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・困難をチャンスととらえ、自らを高めようと努力する教職員 ・子どもを鍛え育てる教職員 	<p>【ビジョン】 地域の人や保護者が通わせたい(学ばせたい)と思う学校をめざす。</p> <p>〈目ざす子ども像〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自ら考え、判断し、行動する子ども ・切磋琢磨し、たくましく生きる子ども ・全力を出し切り、挑戦する子ども 	<p>〈目ざす授業像〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生き生きと学習し、「ねらいとする学力」がつく授業 ・授業構成が明確であり、めりはりのある授業
--	--	--	--

	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価指標	目標値	自己評価				学校関係者評価			改善計画		
						9月	1月	達成度	評価	結果と課題	イ	ロ		ハ	コメント
確かな学力の向上	基礎・基本を定着させ、学力の向上を図る。	授業改善を行う。	単元全体を見通した教材研究を行い、『国語科授業モデル』にそった授業づくりをすすめる。	授業評価表平均2.5以上	100%	3.1		124%	A	さらに教材研究を丁寧に行い、子どもの思考を深める発問の工夫・ふり返りができやすい授業構成を課題として、授業改善を行う。	3			・具体的な方策の設定により、学力向上や授業改善の取組がより実効性あるものになっている。	1つの教材文をもとにして、教材研究のポイントや各学年でつくれる力についての研修を全員で行う。
		学力をつける。	国語・算数の二つの学力グループを組織し、学力アップ作戦を実施する。	国語・算数の単元末テストの得点が全国平均点を上回る児童80%	100%	81%		101%	A	目標値は上回ったが、個別の差が大きい。今後は全国平均を下回っている児童への指導を徹底させていく。	3			・自主学習は意欲を高め、内容の充実を図ることが重要である。	学力アップ作戦を確実に継続し、個別のつまづきに応じた学習を行う。
		自主学習の内容の充実を図る。	自主学習の3つの観点をクリアする児童80%	100%	75%		94%	B	自主学習を行う児童は増えてきたが、内容の充実と丁寧に書くことへの取組が必要である。	3				参考となる内容を紹介したり、復習プリントを選ばせたりして内容の充実を図る。	
豊かな心の育成	『生きる力』育成基盤としてのキャリア教育を推進する。	基本的生活習慣を確立する。	起きる時刻・寝る時刻の固定を図り、生活のリズムを作る。	2点の固定がよくできたと自己評価する児童90%	100%	91%		101%	A	起きる時刻・寝る時刻ともに目標は達成できた。低学年の寝る時刻の定着に課題がある。	3			・生活リズムを作るためには家庭との連携・啓発をさらに強化していくことが重要である。	定着していない児童に対して個別指導を行う。
		道徳教育の充実を図る。	道徳的価値の自覚を深めるため、表現し考えを深める指導の工夫を行う。	道徳の時間に学習した道徳的価値を生活の中で生かしたと自己評価する児童の割合80%	100%	84%		105%	A	自己評価だけでなく、日常生活からも道徳的価値を生活に生かしている様子が伺える。さらに心に響く授業を進めていく。	3			・挨拶は心の問題と連動させて取り組み、家庭地域への協力要請も必要である。	他者からの評価を繰り返し伝え、評価を重ねることで意欲を持たせる。
		キャリア発達を支援する。	学習の振り返りによって自己の成長に気づかせる。	3つのうち2つ以上の観点から振り返りのできた児童の割合80%	100%	80%		100%	A	ふり返り活動を継続することで学習を短時間でふり返ることができ始めた。今後は、学び方のふり返りができるような時間配分・授業の中身を考えていく。	2	1		・「学び方の気づき」の評価基準を明確化する必要がある。	学習で学んだ道徳的価値を児童の経験に結びつける。
		行動力の基盤となる健康な体を作る。	体力を向上させる。食育を推進する。	業間体育で縦割り班を活用し、力を出し切らせる取組を行う。給食献立を活用し、バランスのとれた食事作りへの関心を高める。	業間マラソンで各自の目標距離を全力で走りきる児童90%	100%	68%		76%	C	全力で走ることは概ねできているが、目標設定(3分で6周)が高すぎた。	2	1		・体力向上の指導や食育はその重要性を認識させるとともに家庭との連携が必要である。
信頼される学校	開かれた学校作りを推進する。	学校情報を公開する。	学級だより・保健だよりを月2回以上、中央っ子を年6回発行する。ホームページを毎月更新する。	学校の様子がよくわかると肯定的に評価する地域・保護者の割合90%	100%	95%		105%	A	学級だより、保健だより、中央っ子などの発行並びにホームページの更新は予定通りできている。	3			・あらゆる機会を通して開かれた学校づくりを推進している姿勢や意欲がうかがえる。	学校だよりや学級だよりの内容を充実させていく。
		地域・諸機関との連携を深める。	地域の教育力を活用し、児童の育成に役立てる。	地域人材活用各学年年間2回以上	100%	2.3		115%	A	地域のゲストティーチャーの方から多くを学ばせていただくことができた。	3			・危機管理は内容の充実を図り、全員の意識化を図ることが大切である。	今後も計画的に地域人材から学ぶ機会をもつ。
		危機管理を徹底する。	危機管理研修を内容を工夫しながら計画的に実施する。	危機管理研修毎月1回以上	100%	2.6		260%	A	回数は目標を上回ってできたが、計画通りできていない部分がある。	2	1			各担当が研修方法を工夫して行う。研修後は研修内容をまとめて配布し、再度意識を高める。
学校統合の推進	「せらひがし」小学校の開校を推進する。	受け入れ準備を計画的に進める。	開校準備委員会を受けて、各担当が計画的に校内の準備を進める。	部会終了後、進捗状況の報告	100%	90%		90%	B	各担当が責任をもって準備を進めている。しかし、報告や準備が遅くなることもあり、全体の動きがぎざぎざになることもあった。報告・準備を早目に行うようにしていく。	3			・計画的・精力的に取り組んでいる様子が見える。	部会終了後早めに朝会・暮会を利用して、報告をし共通理解を図る。

【自己評価 評価】A:100%以上 B:80~100% C:60~80% D:60%以下

【外部評価】イ:自己評価は適正である ロ:自己評価はおおむね適正である ハ:改善が必要である